

博士課程教育リーディングプログラム 平成23年度プログラム実施状況報告書

採 択 年 度	平成23年度		
プログラム名	グローバル生存学大学院連携プログラム	申請大学長名	松本 紘
申請大学名	京都大学	プログラム責任者名	淡路 敏之
申 請 類 型	複合領域型（安全安心）	プログラムコーディネーター名	寶 馨

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

現代の地球社会においては、①巨大自然災害、②突発的人為災害・事故、③環境劣化・感染症などの地域環境変動、④食料安全保障といった危険事象や社会不安がますます大きく、かつ広がっている。

本学位プログラムでは、「グローバル生存学」という新たな学際領域を設定し、

(1) 人類が直面する危機を乗り越え、人間社会を心豊かにし、その安寧に貢献するという使命感・倫理観にあふれた人材

(2) 自らの専門性に加えて幅広い視野と知識・智慧によつて的確に対策を行うことのできる判断力・行動力を備えた人材

の育成を目指し、安全安心分野において研究・教育の実績・経緯をもつ研究科が結集して、研究科横断型の大学院連携の教育システムを確立する。

2. プログラムの進捗状況

平成23年12月7日の交付内定通知以後、平成24年2月1日にグローバル生存学大学院連携ユニットを本学の学際融合教育研究推進センターのもとに設置した。同ユニットにおいてプログラム教授会と専門委員会を設置し、教育システムの実施運営方法などを定め、プログラム推進の体制を整えた。3月1日より特定教員を2名雇用し、カリキュラム、学生募集要項を日本語と英語それぞれで作成した。またプログラムの本格実施に向けて特定職員2名と事務補佐員3名を選考し、支援体制を整備した。さらに、6月1日以後に雇用する特定教員の公募を行い、書類・面接選考の上、4名の採用を決定し、プログラムの指導体制を充実させた。

プログラムの実施計画に向けては、国内外のインターンシップ先やフィールド実習先の開拓のため、プログラム担当者を学生の派遣先候補機関に短期派遣して事前打ち合わせを行い、協力を取り付けた。さらに、産官学アドバイザー、国際アドバイザーの候補をリストアップし、アドバイザーへの就任の依頼をし、平成23年3月末時点で国際アドバイザー42名が決定している。3月22日に開催したグローバル人材育成セミナー、3月23日に開催したキックオフ国際会合には国外から16機関の参加があり、本プログラムの実施計画について参加者から貴重な意見・提言を得ることができた。